

機能部材の供給者として



取締役副社長
木村 政雄

技報第3巻第1号の刊行に当り一言ご挨拶を申し上げます

わが国の経済構造は、これまでの右肩上がりの拡大・成長期を終え、横ばいないしは右肩下がりの時代に入ったと言われていています。また、一方地球環境は急速に悪化していることが誰の目にも明らかになって参りました。

このような環境下で産業の果す役割を、我々は冷静に認識し、行動指針をもって歩むことが必要であると思えます。

ひところ、最早「重厚長大」の時代は終り、これからは「軽薄短小」の時代だ、と言われ、電子産業、新素材産業が飛躍的な発展を遂げて来ました。そのことが我々の生活と福祉の増進に大きく役立ってくれたことは疑うべくもありません。しかし、産業の構成と役割を歴史的に見るとき、一つの隆盛がもう一つの産業を不用の縁へ押しやってしまうということもないではないが、多くの場合主役といわれる存在が変わることがあっても、その産業そのものの存在意義が失われるというものではありません。重厚長大の代表のように言われる鉄鋼産業についても供給する製品の存在意義は変わっておりません。むしろ機能部材として期待は増していると言えます。

例えば、自動車の軽量化はエネルギー対策、環境対策からも常に課題とされて来ております。同じ機能の部品が小さく、薄く、結果として軽量化できれば、この課題の実現に適うものです。そうした意味で、特殊鋼はまさに機能部材です。そして他の機能部材と相俟って今日のモータリゼーションの発展に役割の一端を担わせていただけて参りました。

このなかで、わが社をご案内のとおりクリーンなスチール（高纯净度鋼）の製造に力を注ぎ、実績を上げて参りました。また、この技術は「軸受鋼」などの分野で評価を頂いて参りました。このようにユーザーニーズに適う素材の提供ができたことが当社の産業界における役割を果し得た根本と思えます。今後とも、得意分野でお役に立ち続けられるよう頑張りたいと思えます。また、当社はお客様の要請にこまめに対応してきた結果、お客様各位から一定の役割と評価を戴いているものと思えます。

今後ともこの心掛けを大切にしてお客様のニーズに適う機能部材の供給を果すことがわが社の役目と心得て研究開発に、製造上の改善に邁進して参りたいと存じます。

この技報の中にそのような情報や研究成果が盛り込まれており、お客様ならびに斯界の研究者と当社の架け橋としてお役に立つことをお願いいたしております。

今後とも皆様方のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。